

経済、社会活動の再開：コロナウイルス COVID-19 の抑制状況に関するレポート

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント

東京、2020年5月27日

私は医療の専門家ではありませんが、このパンデミックに対処し、生き残るための合理的なアプローチを模索している市民の一人です。1月にコロナウイルスに気づいて以来、このウイルスの症状、感染人数、感染率、波及(伝染)の強度、回復者と死亡者の数、さらには各国におけるウイルス対策の状況等、コロナに関する最新のニュースを逐次追いかけてきました。

中国は大掛かりな都市封鎖の結果、人口約1,000万人の大都市である武漢で3月末までにはウイルスを制御する段階に入りました。これは約2ヶ月という短期間のうちに、中国はウイルスを封じ込めることに成功したと言えます。しかしながらこの時点ですでに、コロナウイルスはヨーロッパ、イラン、アメリカ、ラテンアメリカに広がっていました。

中国で取られた行動、およびその後、アジア各国や西洋諸国でのパンデミックへの対策を見ていくと、私の推測ではコロナウイルスは、アジア圏では4月から5月までには沈静化し始め、ヨーロッパ、米国、ラテンアメリカ諸国においては6月から7月までに沈静化するとみています。これは、世界中で起きた緊急事態宣言または都市封鎖などの、政府が実施した厳しい衛生対策を加味しての予測です。

これまでのところ結果はまちまちで、ドイツ、韓国、中国などの国々はコロナウイルスをある程度のレベルまで抑え込むことが出来ました。とは言え、これらの国々は規制を緩和した後、再び局所的な発生が散見されます。

日本では、コロナウイルス感染の増加により、政府は当初、4月7日から5月6日まで予定していた緊急事態宣言を5月末までに延長しました。この報告書を作成している間に、日本の47都道府県では、次の3つの基準に基づいて緊急事態が解除され始めています。

- 1) 10万人あたりの感染者数が週あたり50人以下となった場合
- 2) 医療システムが安定し、深刻な症状の患者を受け入れるのに十分な数のベッドを病院が確保している場合
- 3) 検査体制が拡充され、感染を監視する能力が十分確保できる場合

日本列島の最北端の島である北海道政府は、道内のコロナウイルス感染者数の増加を受け

て、日本政府に先立ち、2月28日に独自の緊急事態宣言を発表し、3月19日には宣言を解除しました。しかし北海道はコロナウイルスの再発をうけ、4月12日に再び緊急事態宣言を発表しました。このことは、緊急事態宣言を終了または緩和した場合、コロナウイルスの再発や蔓延を止める保証がないことを示しました。

外出を極端に控える自粛措置は、初期段階においてはコロナウイルスの拡大を抑えるのに役立ちましたが、実際には、コロナウイルスの拡大は、これらの制限を緩めた後、いつでもどこでも発生し続けると容易に推測できます。また、治療法の開発には時間がかかるため、私たちは今後、コロナウイルスと共存していくことに慣れていかなければなりません。

さらに、緊急事態宣言や封鎖状態が約2か月続いた結果、各国は経済の急速な悪化という問題に直面することになりました。日本はすでに不況下にありますが、これはほんの始まりに過ぎません。経済学者は2020年末までには300万人以上が失業すると推測しています。アメリカでは1か月半という短い期間で、すでに3000万人が失業しています。ここで例に挙げているのは2カ国だけですが、この他の国においても経済の落ち込みは大きな問題となっており、特に上述したアメリカ、日本は世界でも1番目と3番目の経済大国であるため、この状況は世界の経済にも大きく影を落とす結果となっています。

さらに、これらの長期にわたる監禁状態は、世界中、多くの市民の精神面にも悪影響を及ぼしています。ニュースを見ると、制限措置を解除するために政府に抗議する人々を世界中で目撃し、これは経済の段階的な再開に向けた動きを引き起こしています。

一言で言えば、再開の波はすでに始まっており、各国政府は、新規感染者数を減らすことだけに集中するような対策から、コロナウイルス拡大の監視と制御に注力する政策へと変化をとげなければならないと私は信じています。

今の時点で政府は、新規感染者数を抑え込む方法や経済再開のための数値目標設定について話し合う代わりに、さまざまな分野（医療分野だけでなく）の専門家とともに、経済活動や社会生活を止めてしまうような都市封鎖措置に後戻りしない、別の形でのコロナウイルスの抑制に向けた計画をよく話しあう必要があります。

私たちはすでに、集団感染が、時や場所をえらばず発生することを身をもって経験しており、ワクチンが出来上がるまでにまだ相当な時間が必要だということも理解しています。政府がすべき努力は、火災が発生した場所に対して、つまりコロナウイルスの発生場所または地理的領域に基づいて、それを封じ込めるための特定の制御手段を実施するように指示することにあります。韓国はその点で、経済的な機能を停止させずに、コロナウイルスの急増

を抑制している国の好例となっています。

コロナウイルスに関する重要な事実は、このウイルスはエボラ出血熱ではないという事です。コロナウイルスは以下の特徴を持つ侵襲性の高い呼吸器疾患である事実を忘れてはなりません。

- 1) コロナファミリーに属し、呼吸器系に影響を与える
- 2) 潜伏期間が長く、症状は2~14日後に現れる
- 3) 一般的な症状は、継続的な咳、高熱、息切れ（これらは最も一般的な3つの症状）、嗅覚や味覚の喪失、胸痛、頭痛、筋肉痛、喉の痛み、下痢、または風邪やインフルエンザに似たその他の症状
- 4) 感染した人は、回復するまでの14日間は隔離される必要がある
- 5) 感染率(速度)は他のウイルスより速い
- 6) 世界保健機(WHO)によると、感染した人々のうち80%は軽度の症状または無症状であり、15%は酸素吸引を必要とする深刻な症状で、残りの5%は人工呼吸器を必要とするような命に係わる症状がでる

したがって政府は、経済と社会生活を再開するために、明確で持続可能な政策の実施を開始する必要があります。PCRテストは、症状の重さに関係なく、感染が疑われる全ての人が受ける必要があります。幸いなことに、日本は最近、軽度の症状を持つ人々に対してもこのテストを提供するように政策を変更しました。

さらに、人口の多い地域では、抗体検査をランダムに行うべきです。日本の場合は47都道府県全域で行うべきでしょう。抗体検査は100%正確ではありませんが、国内でのコロナウイルスの拡散度合いの全体像を示し、抗体を持つ人口の割合を知ることができます。この情報はまた、市民の不安を軽減させるのにも役立つでしょう。

私の知る限りでは、日本政府は来月にも抗体検査を開始しますが、これらの検査は感染例がより集中している東京、大阪、宮城にのみ適用されるようです。しかし、抗体検査は全国的に適用されなければ意味がなく、47都道府県全てで検査を実施してはじめて、国の感染範囲をよりよく理解できることを改めて強調しておきます。さらに、偽陽性と偽陰性の数を減らす(検査結果の信ぴょう性を高める為)には、90%以上の確率で正解を導き出せる抗体検査キットを選択することが重要です。

今後6か月間は、全国のコロナウイルス指定病院に十分な資源が割り当てられるよう努めなければなりません。再び、このウイルスが猛威をふるった場合でも、医療従事者が感染者を安全に治療できるようにする為です。6月までには、医療従事者がマスク、防護服、人

工呼吸器、またはコロナウイルスと効果的に戦うために必要なすべての医療物資の不足を訴える様なニュースがなくなることを願っています。私たちは戦争の真ただ中にあり、私たちの為に第一線で戦ってくれている戦士達（医療従事者）は、戦うための武器を必要としています。政府はこの問題を最優先課題として取り組んでいかなければなりません。

また、社会、経済活動を再開するにあたり、高齢者や既往症を持つような人々の健康に配慮する必要があります。なぜならば、こういった脆弱な人々はこれからもコロナウイルスの脅威にさらされ続けるからです。政府はメディアキャンペーンを利用して、家庭、学校、職場、またはあらゆる社会的環境の中で、彼らを保護することの重要性を強調する必要があります。

さらに、さまざまなビジネス/組織において、操業に関するガイドラインは明確に準備されていなければなりません。先月、私は2つの会社にいくつかのガイドラインを推奨しました。これらはすでに世界中の専門家によって提案されているものです。再開のためのガイドラインは、各企業または組織の規模および工程の種類や特性に合わせて検討される必要があります。

このガイドラインに加えて、米国やヨーロッパの企業は、コロナウイルスに免疫を持っている従業員の数を特定するために、従業員に抗体テスト（迅速診断テスト-RDT）を行うことを検討しています。上述したように、これらのテストでの誤検知を減らすために、高い正確性を持つ検査キットを適用する必要があります。これらの抗体検査は、さまざまな国で行ってきた都市封鎖や自粛活動を解除した後も、政府の今後の政策策定において、重要かつ実用的な役割を果たすでしょう。

ここで、封鎖を段階的に解除し始めている3カ国、パナマ、日本、ドイツの感染状況に注目したいと思います。人口450万人、9,268人の感染者がでたパナマでは、死亡率は2.9%、回復率は65%となっています。人口1億2650万人、感染者16,305人の日本では、死亡率は4.6%、回復率は71%です。人口8400万人、感染者176,551人のドイツでは、死亡率は4.5%、回復率は88%です。（数値は5月18日現在）

これらの国は3つの異なる大陸に位置していますが、共通点があります。それは、死亡率が低い事、また感染したとしても高い割合で回復しているということです。コロナウイルスが一般的な病気として認知されるまで、この傾向は変わらないでしょう。日本を除いて、パナマとドイツは当初、コロナウイルスを検出するために広範なテストを行っていました。日本は、病院が過負荷（医療崩壊）になることを恐れて、大規模な検査を先送りにしていました。しかし実際には、病院の収容能力を管理できる水準に保つために、この検査が貢献している

ことが証明されています。

実際、パナマではこれらのテストを広範囲に実施しながら、同時に、コロナウイルスの症例の増加を見こして、100床の新しいモジュール式病院を建設しました。しかしながら興味深いことに、この病院に入院したコロナウイルス患者は1人もいません。幸いなことに、現在、日本は検査能力を高めています。これにより、コロナウイルスの再増加に対する処置を考えるための貴重な情報を、保健当局に提供することができます。

結びとして、私はコロナウイルスが風邪やインフルエンザに似た症状を伴う呼吸器疾患であることを繰り返し述べたいと思います。しかし、感染したか判断する為に、もしくは症状が出るまで約14日間という長い時間がかかります。前述のように、コロナウイルスの最も一般的な症状には、疲労、頭痛、継続的な咳、喉の痛み、発熱などがあります。一部の人々は臭いや味覚の喪失を経験しています。症状は最初のうちは軽度ですが、一部の人々は5〜7日経過すると症状が悪化し、咳や息切れが激しくなり、肺炎を引き起こし、結果として呼吸不全を引き起こします。最初に感じる症状の種類や、その重症度は人によって大きく異なる可能性があることを知っておくことが重要です。

コロナウイルスは呼吸器疾患であるため、一般的な風邪薬やインフルエンザ薬で早期に治療が可能です。発熱、咳、喉の痛み、頭痛などの風邪の症状が最初に現れたときは、処方箋に基づいて抗ウイルス薬と抗炎症薬をすぐに服用する必要があります。非常に初期の段階では、これらの薬物療法は、ウイルスが呼吸器官に強い根をはる前に無力化することができます。この治療法はラテンアメリカの複数名の医師によって推奨されており、世界保健機関のアドバイスに反した内容であったとしても、実際に多くの命を救っています。

今こそ、私たちの社会生活と経済活動を再開する時です。

もう一度繰り返します。コロナウイルスはエボラ出血熱ではありません。

それは侵襲性の高い呼吸器疾患でしかなく、私たちはすでにそれが私たちの健康にどれほどの影響を与えるのかを知っています。

良好な衛生状態を維持し、マスクを着用し、十分な距離を保ち、家庭、学校、職場、またはその他の公共の場において定期的に手を洗いましょう。

私たちの惑星は何百万年もの間、自転、また太陽系の中で回転することを止めたことはありません。ですから、我々人類は母なる地球と共に再び動き始めなければなりません。コロナウイルスを撲滅するために、私たちの間で蔓延しているこの恐怖と集団ヒステリーを克服しましょう。

訳：畑田紋奈